＜今朝の聖書から＞

村上定幸

【アダム】最初の“アダムは”というところですが、他の聖書では“人は”となっている物があります（逆に“アダムは”となっているのは新共同訳だけです）。2:5 をみると“アダムのちりからアダムを作った”とも訳せるようになっています。アダムという言葉がどのように使われているか、聖書を比較してみるのも面白いと思います。

【アベルとカイン】同じようにアベルとカインについてもみると、兄のカインは“現れる”というような意味、アベルは、しばらく前にみましたが“空”とか“虚無”という言葉になっています。今朝、開かれる箇所はこの二人をめぐる、罪がどのように導くかという物語です。

【嫉妬心】シェイクスピアに“リヤ王”というのがあります。“嫉妬心こそ極めて強く人を駆り立てることを知っていた”という箇所があります。この戯曲は面白いのでぜひ読まれることを薦めます。思いめぐらせてみると、あまりかけ離れた存在に対しては嫉妬心を、相手がどんなに意地悪く振舞っているように見えても、起こさないようです。むしろ嫉妬心を抱くのは、ライバルといえる人に対してや、ごく身近な存在に対して持つようです。この真実を示すために、聖書は“最初の殺人事件”を用いて説明しています。

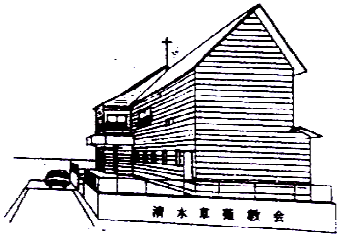
【人殺し】出エジプト記 20:13 には“殺してはならない”と、一番大切な律法の一つとして殺人あるいは（様々なものを）殺すということが禁止されています。“生かさなければならない”ということになるでしょう。ところが人は殺すということを始めました。日本でも縄文時代にはもう、殺人がありましたし、葬りということも行われていました。なぐり殺すとか、突き落とすなどということも行われていたことが分かっています。しかし武具というものはありませんでした。弓矢や剣など、殺人のための道具が残されるようになったのは、弥生時代になってからのことです。煌びやかというイメージを与える弥生時代ですが、争いに於いても煌びやかだったようです。

【礼拝の中で】今朝の箇所に聞きましょう。人殺しにつながる嫉妬心が礼拝における捧げものをめぐって起こっています。今日の教会に於いても、このようなことが起こっていないか、よく見まわすべきでしょう。その時代によって異なるでしょうが“評価”の中で私たちは礼拝を守って来ました。“評価や比較”の中で貧しく生きることを止めなさいと、主は語っていてくださるのです。しかし容赦なく、比較や優劣というものが、私たちの魂を攻めてきます。このような攻撃に耐えない自分を、“試みにあわせず”と毎主日祈るのです。“多く捧げている”とか“教会に捧げるのはもったいない”という誘惑はやってきていないでしょうか。

【殺人に対する主の勝利】アリマタヤのヨセフは、人として出来る限りの葬りを行いました。しかしその後主イエスは蘇りとして死に勝利されました。神様の克服です。サマリヤ人に対する隣人愛を持って“隣人とは誰か”を教えてくださった主は、同じ力を持って、大きな罪を犯したカインと同じ性格を持つ私たちを、善を行う、主の勝利を信じる私たちに、“彼の評価が高い”などという嫉みは“あなたの益にも平安にもつながらない”と教えてくださっているのです。

週　報

２０１２年　２月　１２日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師　　村上　定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　E-Mail grace@big.jp
振替口座　00890-6-214042